

## 題材の目標

- (1) 墨、和紙、筆などの材料や用具の特性を生かし、表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして、描く順序などを総合的に考えながら、創造的に表現することができる。
- (2) 自然物や身の回りのものや様子から、感じ取ったことや墨の効果などを基に主題を生み出し、単純化や強調、構図や墨の生かし方などを考え、創造的な構成を工夫し、表現の構想を練ることができる。墨の効果を生かした表現の造形的なよさや美しさ、感じ取ったことや墨の効果などを基にした主題と創造的な表現の工夫などを味わうことができる。
- (3) 墨の特性を生かした表現に関心を持ち、主体的に創造的な工夫をして表現したり、表現の工夫を感じ取ったりしようとする。

## 標準的な展開例

【準備等】和紙、半紙、絵皿、筆記用具、書道用具、タブレット端末

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 参考作品を鑑賞し、感じたことを発表し合い、墨を使ってさまざまな表現を試みる。</p> <p>★墨を使って、さまざまな方法で表現してみよう。</p> <p>○教科書の参考作品や墨を使って表現した作品を鑑賞し、感じたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「慧可断臂図」雪舟等楊</li> <li>・「バスケットボール」茂本ヒデキチ</li> <li>・「黒猫」エンドレ・ペノベック</li> </ul> <p>○墨を使ってさまざまな表現を試みる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水加減による濃淡</li> <li>・筆の角度</li> <li>・力加減</li> </ul> <p>○躍動感や質感を生かすことに着目し、表したいものやイメージを基に主題を生み出す。</p> <p>2～3 主題を基に墨を使って表現する。</p> <p>★墨を使って、主題を効果的に表現しよう。</p> <p>○主題を基に墨を使って表現する。</p> <p>4 鑑賞会を行い、水墨画のよさや美しさを感じ取る。</p> <p>○互いの作品について鑑賞会を行い、表現の意図や工夫について発表し合い、水墨画のよさや美しさを感じ取り味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次元コードを読み取り、墨によるさまざまな技法によって表現された作品を鑑賞し、墨の特性や効果を感じ取らせる。</li> </ul> <p>【評】墨などの表現の特性を生かして表すことに関心を持ち、主体的な表現の工夫を感じ取る活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水墨画の基本となる技法を練習させる。</li> <li>・基本的な水墨画の技法については、教科書美術1P.64「水墨画の表現」を参考にする。</li> <li>・1年時に学習した没骨法、破墨法、積墨法など、墨の濃淡や紙の種類によるにじみの違いを復習させる。</li> <li>・墨の効果や身近なことなどから感じ取ったことを基に主題を見つけさせる。</li> </ul> <p>【評】表したいものやイメージを基に、墨の濃淡や線などの効果を考え構想を練る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主題を効果的に表せるよう、墨の濃淡や紙の特性を生かしたり、技法を組み合わせたりさせる。</li> <li>・色紙や巻物など、表現の形式を意図に合わせて選んだりさせることもできる。</li> </ul> <p>【評】水加減による濃淡や筆の運びによる線の勢いなどに着目し、墨などの単色により作り出されるイメージを捉える活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品への思いや表現の工夫などについて互いに発表させる。</li> <li>・他者の作品のよさや表現の工夫に共感して味わえるよう、肯定的な見方で鑑賞会が行えるよう工夫する。</li> </ul> <p>【評】墨による作品や伝統文化のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして見方や感じ方を深める活動を通して、「思</p>

	考・判断・表現』を評価する。
--	----------------

【 備 考 】

本題材は、墨は、濃淡、ぼかし、かすれなどを生かすことで、さまざまな表現をすることができる。墨の性質や技法について親しみをもって学ばせる。日常感じていることなどを基に表現するだけでなく、水の量や筆の動かし方などをいろいろ試すことからイメージを豊かに広げ、主題を捉えさせる方法も考えられる。墨という単色で、多彩な表現の広がりを感じ取らせるために、紙の種類や大きさ、取り入れる技法などの幅を広げ、イメージに合わせて選択させたい。